

漢文 故事

守まも株かぶ

韓非子



講師

渡辺 恭子

理解を深めるために

■学習のねらい■

前回まで学習した「訓読の基本」をもとに、漢文の文章を読んでいきます。そのはじめとして、今回は故事「株を守る」を読みます。「株を守る」は、宋の国の人々に笑いのものにされてしまった男の話です。なぜ男は笑いのものになったのでしょうか。「株を守る」の内容を理解するとともに、故事成語としての意味も学びましょう。

まずは、本文を、今まで学習した「訓点のきまり」に従って正確に読んでください。

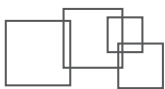
\* \* \*

「故事」・「故事成語」とはなにか

「故事」とは、昔から伝わっている出来事や話のことをいいます。そして、「故事成語」とは、その「故事」がもとになって生まれた言葉のことです。

本文を声に出して読む

漢文の学習では、訓読のきまりに従って、漢文を正しく読めるようにすること、そして、漢文のリズムに慣れることが、最も大切です。訓点〔返り点〕〔送り点〕〔句読点〕の学習で学んだ知識を生かして、「株を守る」の文章を、声に出して、何度も読んでみましょう。主な記号(漢字の向かって左下に書いてある「返り点」)については、「訓読の基本①」の学習メモを、もう一度確認してください。



国語総合

第19回

## 「守株」の現代語訳と話の背景、

### 故事成語としての意味を考える

「株を守る」は、兎が走って来て、木の切り株にぶつかって死ぬという、二度とありそうもないことを見て、それが再び起こるのをじっと待っているという、何とも間抜けな男の話です。

ここに出てくる重要語句の意味を理解しましょう。

#### ■語句の意味

- ・田……………畑。耕作地。
- ・株……………木の切り株。
- ・触れ……………突き当たる。ぶつかる。
- ・因りて……………それによって。そこで。
- ・耒……………田畑を耕す道具。
- ・冀ふ……………願う。
- ・復た得べからずして……………二度と手に入れることはできず。
- ・宋国の笑ひと為る……………宋の国中の笑ひ者となった。

「株を守る」の話は、韓非かんびという学者が書いた本の中に、伝わる話です。韓非は、紀元前二三三年まで活躍した思想家で、法律や刑罰を重んじる思想である法家思想ほっかを極めた人として有名です。韓非は、君主に対して「昔の方法をそのまま持ち込むのではなく、今に相應ふさわしい方法で人民を治めるべきだ。」と主張します。そのとき、自分の主張に説得力を持たせるための手段として、この寓話を使ったのです。

童謡「待ちぼうけ」の歌詞も「守株」の話から生まれました。

#### ■故事成語「守株」の意味

「守株」(かぶをまもる・くひぜをまもる・しゅしゅ)は、

①いつまでも古いやり方にこだわって、新しいことに対処できないこと

②進歩のないこと

の意味で現在使われています。



# 故事

## 三編 一

講師

渡辺 恭子

守株

株を守る

宋人有耕田者。

宋人に田を耕す者有り。

田中有株。兔走

田中に株有り。兔走りて

触株、折頸而死。

株に触れ、頸を折りて死す。

因积其耒而守

因りて其の耒を积てて株を守り、

株、冀復得兔。

復た兔を得んことを冀ふ。

不可復得、而身

免復た得べからずして、

为宋国笑。

身は宋国の笑ひと為る。

「韓非子」

### 【現代語訳】

宋の国の人に、畑を耕す者がいた。畑の中に、木の切り株があった。(ある日)そこへ兔が走って来て、その切り株にぶつかり、頸の骨を折って死んでしまった。(農夫は)そこで、すきを棄てて(耕作をやめ)、切り株を見張り、もう一度兔を手に入れたいと願った。(しかし)兔は、二度と手に入れることはできず、彼自身は、宋の国中の笑い者となった。